



国際親善ニュース

第 12 号

昭和 61 年 3 月 25 日 発行

金沢市都市提携委員会

事務局：金沢市総務部総務課

国際親善係

TEL 20-2075

ようこそナンシー市長



江川市長から特別名誉市民の称号を受けるロッシノ市長

昨年12月11日、ロッシノ・ナンシー市長夫妻とパラ研修教育担当助役ら同市関係者6名が来沢した。

11日の表敬訪問には、江川市長、勝田市議会議長(本会会長)らとなごやかに懇談した。この後、江川市長から特別名誉市民の称号がロッシノ市長

へ贈られ、両姉妹都市間の一層の友情を誓い合った。

滞在中、ナンシー市の主要施策である水問題について大学関係者らと懇談した。また、市内の伝統工芸や文化施設等も見学し、12日に離沢した。



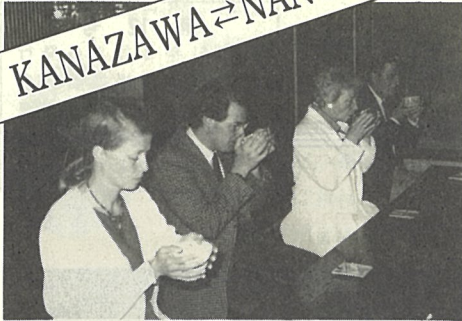
特別名誉市民とは……

親善などの目的で本市の賓客として来訪した外国人または本市に特に関係の深い外国人に対し、市長は、特別名誉市民の称号を贈ることができ、純銀の台座に梅を型どった七宝製のメダルと額入りの証、記念品が贈られます。これまでにロッシノ市長を含めて8人が受賞しています。

これまでの特別名誉市民

- S. 50. 5. 8 マコウスキー・バファロ市長
- S. 50. 8. 4 サラッキー・イルグーツク市長
- S. 53. 6.27 グリフィン・バファロ市長
- S. 53. 7. 2 ビレーラ・ボルトアレグレ市長
- S. 53. 7. 7 クゥレ・ナンシー市長
- S. 53. 7. 9 パープ・ゲント市長
- S. 59.10. 4 方明・前蘇州市長(退職後)
- S. 60.12.11 ロッシノ・ナンシー市長

KANAZAWA → NANCY



市文化ホールでくつろぐ一家

前ナンシー市長一家が来沢

昨年4月30日、クウレ前ナンシー市長夫妻が令嬢、令息を伴って金沢を訪れ、江川市長と歓談した。

令嬢の夫が東京での医学会に出席するのを機会に家族で来日したもので、市長時代に一度も金沢へ来る機会がなかったため、その足で金沢を訪問した。

兼六園、加賀友禅工房、加賀蒔絵などを見学し、金沢の自然と伝統・文化の素晴らしさに深い関心を示した。

一家は、5月1日午後の列車で箱根へ向け離沢した。



日仏の祭典 金沢で!



日仏市民コンベンション・交流フェア開催

昨年10月30日から11月4日まで金沢日仏市民コンベンション・交流フェア（金沢日仏協会主催、金沢市・金沢市都市提携委員会協賛）が開催され、国内で初めての試みとして注目を集めた。

期間中、フランス映画祭、演劇祭、ポスター展などが市内各所で催された。また、市庁舎前では、アルザス・ロレーヌ州日仏協会の協力で同地方の生活展も開かれ、現地から同協会会長のブレンクマン夫人が出席参加し、白ワイン、チーズなどの試飲が行われた。

11月3日にペロル駐日フランス大使、ブリューネ在大阪総領事の臨席のもと日仏市民シンポジウムの開会式が文化ホールにおいて盛大に行われた。

磯村尚徳NHK特別主幹の基調講演のあと午後からは、市民、国内日仏関係者、フランスと姉妹都市を結んでいる国内諸都市の関係者多数によるシンポジウムが開かれ、日仏両国間の交流のあり方について熱心な討論が行われた。



ペロル駐日フランス大使を迎えての開会式

交換留学生大森君 ナンシーへ出発



第7回姉妹都市ナンシー市派遣留学生に金沢美術工芸大学3年の大森啓君が決定し、昨年9月に出発した。

留学中は、国立ナンシー美術学校で、1年間、専攻の油絵を勉強する。

ナンシー発、大森君からの便り

拝啓 皆さん、お変わりありませんか？ナンシーは、うわさ通りの寒さですね。学校では、今は木曜のフロッキー、テッサンに参加している以外は最上階のアトリエで制作しています。この部屋には、いつも僕を含めて5~6人いて、彼等とは仲良くやっています。(まだ絵画論を戦わせるなんてできませんが……)

ある日教授の一人が、日本に行きたいという女の子がいるから会ってほしいと言うので、彼女のアルバイトに行っている話したのですが、彼女が去年日本に留学した男と知り合いだと言うので、もしやと思い名を尋ねたら、案の上あのニボラ(中)でした。世の中狭いものです。いずれにせよ日本で美術やファッションを勉強したいという彼女と話すことは、仏語の勉強にもなる絶好の機会なので、せいぜい国際交流しようと思っています。

いせん、問題は言葉、語学ということになりますが、あせらずやっぺいこうと思います。

では、皆さんお元気で。大森は、元気であります。

由ギゼップ・ニボラ…ナンシー市からの69年度派遣留学生、大森君と同じ金沢美大に籍を置いた。

Le25, Nov. 7:35pm 大森 啓

金澤⇄蘇州



市長表敬の一行

経済技術考察団が来沢

中国の4つの現代化施策の一環として、蘇州市は、工業、特にプレス金型、鑄造技術の分野に力を入れており、その導入に関し協力の要請があった。これを受け一昨年2回蘇州へ、昨年は1回金沢へ、それぞれ訪問団が訪れ、具体的事項について交流を進めてきた。

このような中で、昨年4月8日から15日まで馮大江蘇州市副市長を団長とする経済技術考察団一行7名が来沢し、県内の金型等関連企業を視察した。また、

今後の工業交流、蘇州市研修生の受入れ等について協議を重ね、折しも開催中の「機械工業見本市」を見学するなどして、大いにその成果を挙げた。本年は蘇州市において大規模な金型センターの建設計画があり、合計25名の技術研修生が蘇州市から来訪、市内関連企業等で実地に技術習得に就く予定である。

●●●● 加賀宝生能、蘇州市で初演能 ●●●●

昨年10月17日から19日まで宇野邦夫県議会議員を団長とする加賀宝生友好使節団一行83名が蘇州市を訪問、中国初演能を行った。

姉妹都市での演能は、гент(昭56年)、ナンシー(昭58年)に次いで3回目で、会場を埋めた蘇州市民に日本の伝統芸能の神髄を披露した。演目は「静」の能「羽



衣」、狂言「梟山伏」及び「動」の能「石橋・連獅子」の3本で、約2時間に及ぶ幽玄の舞が観衆を魅了した。

同市での演能は初めてとあって市民の関心は大変高く、観客は能の荘重さをじっくり堪能、友好の輪をさらに広めた。

(写真は、小面を受け取る段市長)

深まる技術交流

○都市計画技術者を派遣

蘇州市は、昭和58年4月に行政改革により人口530万人、面積8,396平方キロになった。この「大蘇州市」の都市づくりに助言するため、昨年7月18日から25日まで、中村秀一市土地区画整理協会常務理事、新家常男国土開発センター社長、小堀為雄金大教授の3名の専門家を派遣し、同市の道路、住宅、河川、下水道問題などについて協議した。

○金型技術研修生の受入準備始まる

蘇州市の要望により、金型技術研修生25名の本市受入れのため、県鉄工協会内に「中国姉妹都市経済技術交流委員会」を設置した。同委員会では、さっそく細部にわたる研修スケジュールを立て、61年度受入れに向けその準備に取りかかった。



蘇州市での技術者会議

КАНАДЗАВА ≈ NPKYTCK

勝敗よりも友好

～卓球選手代表団を派遣～

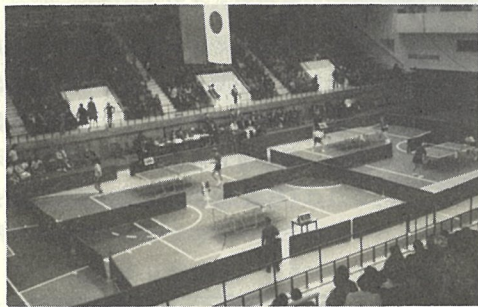
金沢市は、昨年9月、市代表団2名（団長駒谷収入役、団総務中村総務部副理事）に加え卓球選手代表団8名をイルクーツクに派遣し、同市で親善試合を行って友好を深めた。



同代表団は、9月26日金沢市役所で行われた結団壮行式に臨み、江川市長、勝田市議会議長（本会会長）らから激励の言葉を受けた後、空路イルクーツクへと向かった。

卓球試合は、結果として32試合中3勝29敗と金沢チームの大敗であったが、どの試合も観客の熱い声援を浴び、親善試合としては大成功であった。

一行は、その後市内視察やシクロパト市長主催の夕食会などに出席し、10月4日、元気で帰沢した。



卓球試合の会場風景

イルクーツク市民、観光船で来港

ソ連観光船プリアムーリエ号が昨年10月24日金沢港へ来港した。この船には、姉妹都市イルクーツクのグループも乗船しており、埠頭で花束贈呈の歓迎が行われた。

船客は、青年が多く、民族舞踊アンサンブルのグループもいて、同日夕、市婦人会館にて公演が行われた。この後、交歓パーティが開かれ市民との交流を深めた。

ソ連観光船は、昨年4月と9月にも来港している。

KANAZAWA ≈ BUFFALO

深め合う友情

～バッファロ第53小学校一行が来沢～



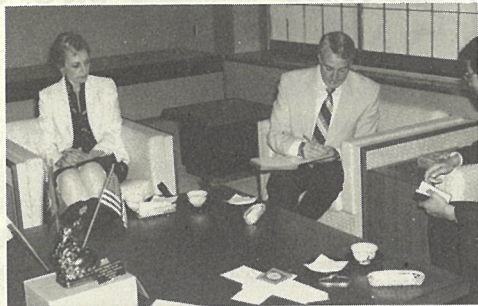
武家屋敷を見学する一行

バッファロ市公立第53小学校児童一行15名（団長、ウッド校長）が昨年5月19日に来沢した。

事前に伏見台小学校英語クラブ員と文通をしていた関係もあり、同校の全校児童による歓迎が体育館で行われた。昼食を共にした後、バスケットボール、フォークダンスなどをして交流を深めた。

少年自然の家で交歓パーティが行われ、同施設に伏見台小学校の児童達と一緒に泊まるなど楽しい思い出をつくった。また、一行は、兼六園など市内観光もし、23日に離沢した。

～ニューヨーク州立大学バッファロ校の教授夫妻が来沢～



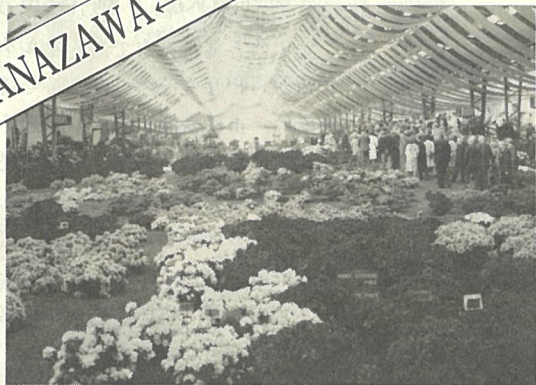
市長表敬の教授夫妻

州立大学バッファロ校歯学部のみナハン教授夫妻が昨年5月15日に来沢した。

姉妹校の金沢大学で口腔関係の講演を行い大学関係者とも交流を深めた。

古都の春の情緒を満喫し、17日午後、離沢した。

KANAZAWA ⇄ GHENT



豪華な花でいっぱいの会場

ゲント花の祭典に本会委員が参加

5年に一度開かれる世界的に有名なゲント花の祭典に本市から北川昌夫金沢ロータリークラブ国際奉仕委員長と合田昌英県海外青年交流協議会会長が市長代理として出席した。

二人は、昨年4月18日から22日まで滞在したが、ボードワン国王陛下が御臨席の19日の開会式にも参列するなどの榮譽を持った。

広い会場には、西洋産ツツジ等が豪華に植え込まれ、世界各国からも多数の見物客が来ており、その美しさに驚嘆していた。

ヨーロッパ博覧会
総裁が来沢

ゲント市出身で元ベルギー王室侍従長・現ヨーロッパ博覧会総裁のヘルマン・リバース氏夫妻が筑波万博ベルギー政府代表のバン・シャベール氏と昨年5月18日来沢し、江川市長を表敬訪問した。



《世界に広がる交流》

①



②



③



①マレーシアのトンク・シャハリア妃殿下が来庁し市長表敬した。(5月4日)

②英国海軍哨戒艇ピーコック号とスワロー号が来港し市民と友好を深めた。写真は埠頭で花束贈りと記念撮影する乗組員(7月4日)

③ジファード駐日英国大使夫妻がファーラー総領事を伴って来庁し市長表敬した。(7月4日)

○本会会長に勝田氏



金沢市都市提携委員会は、7月8日60年度総会を開き、末岡尚前会長に替って新会長に勝田三郎市議会議長を選出した。勝田新会長は、「今後の国際交流においては、市民対市民の直接交流がますます重要性をおびてくる」と力強く就任のあいさつを述べた。

また、今年度から新たにアジア協会、国際理解を深める婦人の会、エイ・エフ・エス日本協会金沢支部の3団体をメンバーに加えることが全会一致で承認された。

60年度その他の交流

- 4/22 ファーラー在大阪英国総領事が来庁
- 5/13 日系ブラジル人18名が市長表敬
- 5/15 オーストラリアのツアーック高校一行24名が市長表敬
- 6/13 アギーレ駐日ウルグアイ東方共和国大使が来庁
- 7/2 ローシュ・フランス上院議員が来庁
- 7/3 金玉民在新潟大韓民国総領事が来庁
- 7/4 ジファード駐日英国大使が来庁
- 〃 夏期日本語講座の受講生42名が市長表敬
- 8/15 インドネシア・バリ舞踊団団長ウィルヤ夫人が市長表敬
- 9/7 高山正市総務課主査を語学研修生として蘇州市へ派遣
- 9/20 日系ブラジル人の女性ジャーナリスト、アンジェラ・ヒラタさんが市長表敬
- 9/24 北京市の経絡導引能源理療研究会の龐英武会長ら一行4名が市長表敬
- 10/19-21 市議会議員の西村進氏と鴻野博司氏が蘇州市を訪問
- 11/5 中日友好協会副会長林林氏が市長表敬
- 11/11 人類愛善会第2回アジア代表者会議の出席者7名が市長表敬
- 11/15 グイーディ駐日イタリア大使夫妻が来庁
- 11/21 ミクロネシア連邦コスラエ州知事タケオ・ジョージ氏ほか4名が助役表敬
- 1/15-18 蘇州物産展事前協議団5名を蘇州市へ派遣
- 1/22 イルクーツク市に卓球用品一式を寄贈
- 3/20 ナンシーへ古切手2万枚送付

イルクーツクを訪ねて

金沢市収入役 駒谷良則



金沢市と親善都市であるイルクーツク市から相互交流の一環として招へいを受け、市代表団2名、卓球選手代表団8名が卓球試合を通じて両市民間の友好と理解を深めるため、昨年9月27日から8日間にわたり訪ソいたしました。一行の団長である私は、初めての訪ソであることに加え、言葉の不自由さもあって、責任の重大さを感じながら新潟空港を離陸したのであります。

イルクーツク市は、300年以上の古い歴史の町で極東における基地として栄え、今日では55万の人口を持つ大工業都市としてその製品を諸外国へ輸出しています。またソ連科学アカデミーの分院や科学研究所、さらには国立大学のほか工科大学等8つの単科大学があり、まさに科学と学生の町であるといえましょう。

バイカル湖から流れ出す美しいアンガラ川の流域に発展したこの街並みは、広大なる林野を開拓して出来たもので道路中も広く、それに沿う大きな街路樹等も黄茶褐色に紅葉しており、まるで森林の中に街があるかのような感じを受けました。

卓球試合は残念ながら大敗しましたが、初日には900人余の観客が集まって我々にも惜しめない声援を送って下され、熱狂的な中で試合が行われました。イルクーツクの代表選手は極東地区でも優勝している人達だそうで、勝敗に大変こだわっているように感じられましたが、バイカル湖遊覧を共にして交流を一層深めることができました。イルクーツクでの滞在は6日間で、ハードな日程であったため市内を十分に視察することはできませんでしたが、一行が無事で帰沢でき、このような機会が与えられたことに心から感謝いたします。

✦ 編集後記 ✦

本号から気分を一新してB5版6ページとし、記事も各姉妹都市別に載せてみましたので一層読み易くなったことと思います（ポルトアレグレは目立った交流がなかったため省略）。60年度も益々交流は活発化し、本文に載せきれなかったものも多々ありますので、最終面に「その他の交流」としてまとめました。また、ナンシーへの派遣留学生大森君から来た手紙のうち、一通の内容を抜粋して載せてみました。現地に滞在する若者の生の声を聴くのも、また興味深いと思います。